

パンダのもり 施設概要



歴代のジャイアントパンダ舎

初代パンダ舎 (1973年5月～1989年3月)



初来園のカンカン・ランランのための施設です。2つの屋外放飼場、2つの屋内展示室、3つの寝室を備えていました。1972年の来日時は未完成で、当初はトラ舎に仮住まいでした。

二代目パンダ舎 (1988年4月～)



ホアンホアン・フェイフェイによる初繁殖の後、将来の3世代飼育を念頭に作られました。専用の産室ができ、室内展示室は4つに、竹庫は2倍の広さになりました。

パンダと共生する
未来のために、
パンダのもりが
完成しました。

ジャイアントパンダが初めて種として登録された1869年から151年。生息地の破壊や密猟など、野生のジャイアントパンダはいまだに厳しい状況におかれています。生息地のある中国と協力し、飼育・繁殖・研究をおこない、野生のジャイアントパンダの保全に役立てる施設として、新しい動物舎ができました。足を踏み入れると、そこは中国のもり。豊かな自然環境を感じながら、ジャイアントパンダと共生する未来を考えてみましょう。



東京都恩賜上野動物園

〒110-8711 東京都台東区上野公園 9-83

TEL: 03-3828-5171

www.tokyo-zoo.net

開園時間: 9:30～17:00 (入園は16:00 まで)

休 園 日: 月曜日 (祝日・都民の日にあたる場合は翌日)・年末年始

入 場 料: 一般 600円 65歳以上 300円 中学生 200円

※都内在住・在学の中学生、小学生以下は無料



東京都恩賜上野動物園

※無断転載・二次使用を禁じます

パンダのもりへ、ようこそ

小道の先に広がる パンダのもり

ジャイアントパンダの生息地は、中国南西部の標高 1300m を超える高山地域。主食とするタケも生える森の中で、さまざまな動物たちとともにくらしています。さあ、小道をたどってパンダのもりをたずねてみましょう。



レッサーパンダ

中国の森に生息し、こちらでもタケを主食にしています。ジャイアントパンダと似ているところ、違うところを探してみましょう。



キジの仲間たち

鮮やかな色彩をもつ多様なキジたちは、中国の環境の多様さを体現しています。ジャイアントパンダの生息地の豊かな自然を感じてください。



痕跡のレプリカ

足あとや爪あと、糞などを見つけたら、いよいよパンダの生息地に入ったサイン。次の角を曲がったら、パンダとばったり出くわすかもしれません。



生息地に似た景観

中国風の建物と起伏にとんだ山。ついにジャイアントパンダの生息地にたどり着きました。奥に見える上野の森が、中国の深い森を連想させます。

自然環境への配慮 —パンダと共生する未来のために—



豊かな緑

ふんだんに植えた樹木は、いずれ大きな木に育つでしょう。屋上緑化を施した建物は、室内のジャイアントパンダたちを厳しい太陽熱から守ります。

パンダに適した飼育環境

生息地の気候に近い環境を保てる屋内施設、運動不足を防ぐ起伏にとんだ屋外施設、日差しや雨をしのげる洞窟など、ジャイアントパンダ飼育の長い歴史をギュッとつめこんだ、パンダのための施設です。



過ごしやすい室内環境

高山地帯に生息するジャイアントパンダは、ここでは暑さの厳しい夏には長時間を屋内で過ごします。屋内の環境を整えました。



命綱の食料庫

ジャイアントパンダの健康を保つには、毎日1頭当たり60kg以上もタケが必要です。大量のタケを新鮮なまま保存できる、専用の大型冷蔵庫です。

保全研究施設として

ジャイアントパンダの保全を目指し、飼育下での繁殖に取り組めます。また、パンダの生理・生態は未解明なことばかり。飼育管理の中で得られる多くの知見が、野生のパンダを守る助けとなります。



命をはぐくむ保育室

体重約150gととても小さく生まれるジャイアントパンダ。母親の子育てを手助けできる保育室を新設しました。子どもの健康診断もここで行います。

※写真は2017年撮影



モニター室や検査室

ジャイアントパンダの様子を24時間録画し、行動観察に役立てます。繁殖に必要な性ホルモンなどのチェックを行うことができます。